

★カリスマ職員の元祖 北川憲司さん心筋梗塞で急逝

52部屋ある「えにし」のHP <http://www.yuki-enishi.com/> のあちこちに登場するケンちゃんのエピソードの1つを抜粋します。



北川憲司さん

厚生省の課長だった宮本政於さんによる「役所言葉の辞書」をご存じですか？

- ・前向きに：遠い将来にはなんとかなるかもしれないという、明るい希望を相手にもたせる言い方
- ・検討します：検討するだけで、実際にはなにもしないこと
- ・配慮します：机の上に積んでおくこと
- ・お聞きしておきます：聞くだけでなにもしないこと
- ・努める：結果的に責任をとらないこと
- ・見守る：人にやらせて自分は何もしないこと
- ・鋭意：明るい見通しはないが、自分の努力だけは印象づけておきたいときに使う言葉
- ・慎重に：断りきれないときに使う。実際には何も行われないこと

この「掟」に異変が起きています。

前例を破ることも目立つことを怖れず、新しい政策に取り組もうとする「カリスマ職員」が急増しているのです。(略)

厚生労働省から大阪大学大学院教授に転じた堤修三さんが「カリスマ職員」という言葉を思いついたのは、滋賀県庁の北川憲司さんの役人離れした仕事ぶりを知ったからだそうです。

北川さんが、土日返上で県内を動きまわったおかげで、滋賀県の市町村には、前例を破ることを恐れぬカリスマ職員が続々と誕生。

その活躍ぶりは別項に譲るとして、「いま何人くらいいるのかしら？」と尋ねたときのよどみない北川さんの返事をご紹介します。

「大津市に4人、近江八幡市に3人、彦根市に2人、八日市市に1人、湖東町に1人、甲良町に1人、米原町に1人……」